



2008/09 WEEKLY BULLETIN

国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区 B

市原ロータリークラブ会報

第 2205 回例会 2009 年 2 月 25 日(水) SAA / 常澄会員 会報担当 / 三宅会員

例会会場 五井グランドホテル 市原市五井 5584 - 1 事務局 TEL 0438-38-3535



点 鐘 市原 RC 会長 藤谷泰弘
ソング それでこそロータリー
お客様 日本たばこ産業(株)千葉支店長 大森均様
社会環境推進室部長 中村勝様

卓話 企業市民 JT の想い

会長挨拶 市原 RC 会長 藤谷泰弘



みなさんこんにちは。
JT 日本たばこ産業
(株)の大森様、中村様
お出でくださりありが
とうございます。

今日は JT 日本たばこ
産業(株)様による卓話
でございます。大森様、中村様にはご多用のところあり
がとうございます。

JT たばこさんといえば、以前は日本専売公社と申して
おりました。今では懐かしい響きがあります。三公社五
現業などの言葉もありましたが、何と何のことだっけと
思い出すのも大変です。

JT さんのことを、ちょっとばかり調べてみました。1
985 年に民営化されましたね。24 年前です。(今年と
同じ丑年)ただし、国が 50 パーセント以上の株を所有
することが義務付けられている特殊会社です。24 年、
きっと、大きな変革を遂げてきたたんだらうと思います。
のちほど卓話をよろしくお願ひいたします。

幹事報告 幹事 小川長二

3/23(月)袖ヶ浦 RC との移動例会です。昼はゴルフコンペ
夜例会は 18 時から、なごみで行われます。

委員会報告 山本新世代育成委員

2/7~8 ライラセミナーのご報告

岡本会員の会社社員、片平さん、川井さんと共に参加し
てきました。テーマは「生きる」。場所は増上寺というこ
とで、法話を聞いたり、朝夕はお経を読み、夜は講堂に
て雅楽鑑賞もしてきました。青少年とのグループディス
カッションもあり、貴重な経験となりました。



日本たばこ産業(株)千葉支店長 大森均様

本日は歴史のある市原ロータリークラブにお時間を
頂きまして本当に有難うございます。私、JT という会
社で勤務して 26 年になります。私どもの会社はいかん
せんタバコを扱っているものですから、今日の話もみな
さんを煙をまかないようにしっかりと話をさせて頂け
ればと考えております。

私ども JT、日本たばこ産業でございますけれども、
1985 年に日本専売公社から民営化を致しました。です
から私が入社したのは 1983 年、2 年前ということにな
りまして、ある意味この 24 年の間、公社から民営化の
会社に至る様々な変革みたいなものを現実に私自身も
一社員として経験をしてきたつもりです。その前に実
は、専売公社の由来というものがございまして、ご存知
の方が多いたと思いますが、もともと日清戦争が勃して、
その戦費調達という形で公社制度になりました。海外
を見てもタバコというのは、必ず安定的な財源としてや
っておりますので、ほとんどの国が専売公社、要は国が
管理するという様なシステムになっております。さすが
に 21 世紀に入りまして専売公社制を引いている国は少
なくなっておりますけれども、例えば中国ではまだ専売
公社制でございまして、あれだけのマーケットですから
なんとかと思うんですけれども、販売活動も出来ないよ
うな状況になっております。

今 JT はどうなっているのかとちょっとだけ宣伝さ
せて頂きたいと思ひます。ご紹介頂いたとおり、民営化
から 24 年経っております。今、タバコ本体の従業員は

9000名になっております。ちなみに民営化前は3万6000人でしたので、この24年でこれだけ合理化が進んでいます。これはいたずらにリストラしたわけではございません。ひとつは、国内需要がかなり下がっておりますので、製造工場も今全国的に10箇所になってます。24年前は製造工場は36箇所でしたので、そういった意味では私どもも民営化になって、のほほんとやっていたわけではなくて、ある意味技術革新、構造革新ということの現れは今の従業員数になっているのではないかと考えております。

それと、民営化してから経営の多角化をということで様々な領域に挑戦して参りました。過去はいろいろありましたが、現在私どもの会社は三つの大きな事業部門で経営戦略を作っております。一つめが、当然タバコ会社でございますので、国内タバコ事業ということになります。売上ですけれども、普通の売上だけではなくて（税抜き）ということにしておりますのは、実は日本の場合、ワンパックひと箱あたり6割が税金なんですね。ですから単純売上にすると、とてつもなくいい会社に見えるということになるわけですね。私ども自身の指標としては税抜きという概念を使っております。そこで、2008年3月昨年の決算ですけれども、国内タバコ事業という形で1兆1200億あまりというものの税抜きの売上高がございます。その次に大きいのは実は海外タバコ事業というものでございまして、黄色いグラフになっておりますけれども、こちらのほうが1兆500億程度になっております。

そして二本目の柱でございまして、医薬事業。こちらの方はご存知の通りかなりハイリスク・ハイリターンというビジネスになります。おそらく年間、何百億、1千億程度は投資をしていかなきゃいけない、そのかわり、一発当ればパテントがあってかなりの利益を生むというビジネスでございまして、こういった医薬事業を私どももやっております。

実は食品事業部というものもやっております。今、ちょっと話題になっておりますカトキチは元々四国にあった冷凍食品会社ですけれども、友好的に吸収させて頂いて、カトキチさんと今冷凍食品部門において再構築をしている最中です。飲料ですとルーツという缶コーヒーこれかなりコマーシャルをやっていますが、そちらのほうの飲料系、それと、サンジェルマンという会社も吸収させて頂きまして、業務用のパンの生地の冷凍の生地です。そういった食品の事業をやっております。

こちらの方が全体の売上でいきますとだいたい13%、逆にいえば伸びているという状況でして、経営コンセプトから言いますと、食品事業部というのは実は医薬と比べた場合、ローリスク、ローリターンなんです。利益の幅も少ないけれど、確実に利益に貢献するというので、基本的には、医薬、食品、そしてタバコとこの三つの柱を24年間築きあげてまいりまして、今後共JTグループ全体の発展のために、資源の計画を図りたいと考えております。

タバコ事業ですが、驚かれた方もいらっしゃるかもしれませんが、実は売上高から言いますと、海外と匹敵をする、つまり、海外の伸びしろが非常に高いということです。海外のタバコ事業が全体の売上の41%ございまして、毎年約10%売上げが伸びています。当然、アメリカがありますが、海外で一番売上が伸ばしているのは実はロシアなどの旧共産圏の国々、ああいったところではマイルドセブンなど非常に高い評価を頂いております。それと、アジアでは自社ブランド、マイルドセブンというものが人気で、特に韓国、台湾ではナンバーワンのブランドに育っております。

最後にタバコは大人の嗜好品であるからこそ吸われる方、吸われない方の判断は一定のリスクを承知の上で大人が判断するべきだというふうに考えております。決して条例とか政令とかいうもので一方的に規制するというのはやはりいかなものかなというのが正直な気持ちです。いずれにしても昨今タバコの風当たりは強うございますけれども、私どもとしては吸われる方、吸われない方お互いに気持ちよく生存出来る環境作りが大事なのではないかと。具体的に言いますと、吸う人、吸われる人を分けるのではなく、タバコの煙をわけるということをコンセプトに様々な喫煙環境作りをしております。今日来ている中村はそのトップですので、是非分煙をするのに何かご用命がありましたら、コンサルティングは無料でございます。タバコというもの、嗜好品というもの、これがある意味、窮屈にさせないように、そうは言っても迷惑を掛けないように、お互いに共存出来る社会を実現したいなと思っております。本日は、貴重なお時間を賜りまして、本当に有難うございました。

ニコニコ・ソーリーボックス

藤谷会長・小川幹事 日本たばこ産業株の大森さん、中村さん、本日は貴重なお話ありがとうございました。